

課題名

次世代型超音波生体モニタリング技術の事業化

プロジェクトの概要

人工知能技術およびロボット技術を応用し、既存の超音波診断装置に付加するだけで誰もが簡単に運動する臓器内の患部を自動抽出・追従・モニタリングできる次世代型超音波生体モニタリング装置の事業化検証を行う。

いつ、どこで、誰が使用しても一定水準以上の精度で画像が取得・維持できることが超音波生体モニタリング装置に求められてきている。



ビジネスモデル(申請時)

救急・循環器領域での超音波生体モニタリングの需要が大きい。IVC径と呼吸性変動を指標とした輸液管理が可能な次世代型モニタリング装置を救命救急の現場・集中治療室向けに販売する。



生体モニタリング機能

診断画像維持・最適化支援機能

異常検出・アラーム機能

活動計画(申請時)

- ・ヒアリング1・2: 共同研究医療機関を対象として、超音波生体モニタリングシステムの仕様を策定。
- ・ハード設計・製作: 10月~12月共同研究先の大林製作所(株)に依頼。
- ・開発製品は医療機器であるため、市場調査に加えて薬機法への対応も検討。

| 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|-------|-----|-------|----------|----|---------|
| ヒアリング | | | 市場調査(検証) | | DemoDay |
| 試作設計 | | 試作機製作 | | 評価 | 補完調査 |
| | | | 購入品調達 | | |